

平成28年度第2回奈良県学校・地域パートナーシップ事業

地域コーディネーター連絡会実施報告

- 1 日時 平成28年9月13日(火) 13:30~16:00
- 2 会場 奈良県産業会館 5階 大会議室
- 3 参加者 県内学校・地域パートナーシップ事業 地域コーディネーター 計 107名
- 4 内容 13:30~13:35 開会
13:35~14:45 講演

「コーディネーターの役割～学校・地域が連携・協働して働く意義～」
特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク
理事長 生重 幸恵

14:50~15:55 情報交換

15:55~16:00 閉会

5 講演概要

◇ 日本社会の問題点

○少子高齢化の進展、社会格差の増大・固定化、地域社会・家族の変容、産業構造・雇用の変化、グローバル化の進展等

- 子どもたちが社会を生き抜く力をつけるためには家庭と学校の間で活動していくコーディネーターの役割が大切
- ・子どもたちに「この町を自分たちが支えていくのだ」という意識を育てていくことが大事

○子どもたちの未来…現在の職業の多くは今後なくなっていく

「子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」(キャシー・デビッドソン氏)

- 教育改革の必要性…人づくり=町づくり=県づくり⇒地方再生へ

◇ これからの教育を支えるコミュニティ・スクール(CS)

- ・「この地域には何もない」ではなく、まず校長が「こういう地域でこのような子どもを育てたい」というビジョンを持ち、地元の資源(人材等)に教師が気付くことが大事。
- ・地域の人材に対し漠然と依頼するのではなく、「あなただからこそできる」と具体的に依頼することが大事
- ・CSの円滑な運営のために…「熟議」の重要性
奈良県ではCSと同様の取組が行われ、熟議を重要視した取組が実践されている。学校と一枚岩になって、年に1回でも全員が集まってテーマを決めて熟議を行うことが大事。

◇ 土曜日の教育活動…土曜日ならではの多様なプログラムづくりを!

- ①実社会につなぐ ②企業のリソースを生かす ③学習意欲・習慣形成につなげる
- ④「地域ならではの」…地域の目標を踏まえ「ふるさと教育」や「学力向上」などの地域の特性や課題に応じたプログラム→何より自分のふるさとを大切に思う心を育む

◇ 大学入学者選抜改革と教育の変容

「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」、高校時代の活動や適性、意欲等の総合的評価による選抜への転換

○キャリア教育の活用

- 次の教育課程の方向性…
- ・何を知っているか、何ができるか
 - ・知っていること・できることをどう使うか
 - ・どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか

☆キーワード=
「社会に開かれた教育課程」

○学校教育の改革～アクティブ・ラーニングの充実～…「正解主義」から「学び合い」へ

◇ コーディネーターの役割

コーディネーターは間をつなぐ人。地域教育の中に、「協働」関係をつくり出し、子どもの教育支援に振り向ける役割を担う。そのためには、コミュニティの状況に合わせて、人的・社会的・物的資源を効果的に組み合わせる必要がある。

6 感想

★ 実践の量と質に驚きました。大変参考になったので、地域の実情を考慮しながら取組を推進していきたいです。(市町村職員)

★ (講師の方の) 熱弁の中にある温かな人間性に感動し、元気をいただきました。(教職員)

★ たくさんの実例をもとにして、今必要とされているコーディネーターとしての役割が少しわかりました。(地域)

